神山茂賞受賞者の事績

（ 平成元年　～　令和６年 ）

※　各事績は、それぞれ受賞時の内容です。

※　受賞者の敬称は省略させていただきました。

平成元年　神山茂賞　　井　上　能　孝

古文書や各種文献等の調査、また領事館関連など外国語史料の翻訳を通して、黒船来航から幕末・明治初期にかけて函館で英学がどのように興隆したかを解明した

平成元年　神山茂奨励賞　　道南女性史研究会

道南の女性史を学ぼうと昭和５１年に発足。これまでに６冊の「道南女性史研究」誌を発行、取りあげた女性は１００人にも及びその生きざまを記録にとどめ続けている

平成２年　神山茂賞　　冨　原　　章

函館の上水道について、その創設に至る史実や災害などの模様、上水道を願う市民の様子などを長年月にわたって克明に調査、編纂した「函館水道創設事業史料」を出版した

平成２年　神山茂奨励賞　　長　川　清　悦

埋もれていた生活用具や郷土史資料５千点を集め私設「七飯郷土資料館」を開設、その後町施設へ寄託し将来の研究者の途を開き、また郷土史に係る多くの研究、発表をしている

平成３年　神山茂奨励賞
元町倶楽部・函館の色彩文化を考える会

函館地区に残る歴史的建造物の下見坂のペンキ色彩を「こすり出し」という平易な手法で、時代と世相を色彩の面からあぶり出し、まちの歴史と文化を解き明かした

平成４年　神山茂賞　　中　村　正　勝

全国各地で調査、収集した膨大な資料をもとに編纂委員会委員長として「渡島地区特定郵便局長会百年史」編纂したほか、多数の研究著書を刊行している

平成４年　神山茂奨励賞　　小 井 田　　武

「森町史」の編纂に携わるとともに、森町の歴史上の事件等の著書や文献研究を発表し、地方郷土史の発掘に努力、地方文化を後世に伝える役割を果たしている

平成５年　神山茂賞　　葉　梨　孝　幸

古老からの聞き取り調査や研究に力を注ぎ、「檜山の史跡と伝説」を自費出版したほか、出版物も多く、更に私設乙部町史研究室を開設、檜山地方の郷土史研究に光明を灯した

平成５年　神山茂奨励賞　　亀 田 史 談 会

郷土の姿を後世に残すべく、各町会の委嘱を受け「神山 300 年誌」「赤川町誌」「亀田川の史跡案内」「桔梗町誌」「鍛冶町誌」等の編纂に協力、町の歴史の掘り起こしを図った

平成６年　神山茂賞　　浅　利　政　俊

第２次世界大戦末期の函館市と近郊町村間にあった学童集団疎開について、疎開先の現地調査や体験者の証言資料を発掘のうえ「証言日本最後の集団学童疎開」を出版した

平成６年　神山茂賞　　函 館 日 米 協 会

米国国立文書館所蔵の公文書記録を入手し調査研究、困難なマイクロフィルムからの解読作業を進め、翻訳や時代背景を調査のうえ「箱館開花と米国領事」を出版した

平成６年　神山茂奨励賞　　竹　田　又　平

日本写真発祥の地函館において、写真器材や資料収集を続け、写真文化の向上等に努めるとともに、北海道写真史料保存会を結成し「函館市写真歴史館」の設立に尽くした

平成７年　神山茂賞　　道南女性史研究会

道南の女性史作りのため、インタビューなど聴き取り取材や綿密に調査のうえ、「道南女性史研究」を継続刊行するほか、単行本「道南の女たち」を出版した

平成８年　神山茂賞　　永　田　敏　雄

道南の石碑を訪ね歩き、碑文解読の研究に取り組み、碑文の拓本と翻刻、書き下し文を収録のうえ、建立年や経緯など歴史的意義の解説を加えた「道南の碑」を出版した

平成９年　神山茂賞　　富　岡　由　夫

明治・大正・昭和初期における函館の造船や機械製造業など地場産業の調査研究を続け、「函館機械工業史」等をまとめたほか、「函館産業遺産研究会」を設立した

平成10年　神山茂賞　　坂　本　龍　三

函館図書館の設立と運営に情熱を注いだ創設者岡田健蔵の評伝「岡田健蔵伝」を刊行するほか、石川啄木に関する資料を調査のうえ、「啄木文庫資料目録」を作成した

平成11年　神山茂賞　　荒　木　恵　吾

近隣町村史の編纂に精力的に携わり、「南茅部町史」「鹿部町史」「砂原町史」等を編纂し、更に「木直二百年史」「私の戦争史」等を刊行したほか、後進の育成に力を注いだ

平成12年　神山茂賞　　新　明　謙　治

謡曲の史料収集、研究を重ね、函館謡曲に関し歴史記録となる「花蹊」を刊行したほか、観世流の「新謡会」を主宰し、後進の育成、指導に当たっている

平成13年　該当者なし

平成14年　神山茂賞　　大　淵　玄　一

郷土の自然科学分野の研究に努め、「函館の自然地理」「函館の歴史」などを出版するとともに、社会科資料「郷土函館」をまとめ、社会科教育の充実に尽くした

平成14年　神山茂賞　　落　合　治　彦

「上磯地方史研究会」「函館の歴史風土を守る会」など様々な活動と郷土史に関する研究に努め、「上磯町史・年表」の編纂に携わるほか、資料の発掘や公開に取り組んだ

平成15年　神山茂賞　　小井田　　武

「森町史」の編纂に携わるほか、「森町大火災害史」「森町の歴史散歩」「アイヌ墳墓盗掘事件」など多くの著作を執筆、更に「北海道駒ケ岳噴火誌」を刊行した

平成15年　神山茂奨励賞　　近　江　幸　雄

特に道南の人物に関する研究を続け、「函館人物誌」「函館郷土覚え書」等の著書を刊行し、また、新聞紙上への連載、各種講演など郷土史を伝える活動に努めている

平成16年　神山茂賞　　高　木　崇世芝

道南の郷土史研究に取り組むとともに、江戸期以降の北海道古地図研究や史料収集を続け、北方図に関する多くの著書、論文を発表したほか、講演活動にも努めている

平成17年　神山茂賞　　大野町文化財保護研究会

地域の文化財や史跡・史料の研究調査、保存はもとより、各種講演会や見学会の開催、また「郷土史かるた」や箱館戦争をテーマとした紙芝居の制作など幅広く活動している

平成17年　神山茂賞　　函館産業遺産研究会

産業遺産を実証的に調査、研究し、発表会や見学会を開催するほか、報告書では、「北の船大工道具」「函館要塞の研究調査」等、研究誌では「函館の産業遺産」を刊行した

平成18年　神山茂賞　　山　崎　栄　作

道南、北海道の歴史資料の調査研究を続けるなか、函館中央図書館所蔵の「東遊奇勝（全13巻）」を復刻発行したほか、「陸奥紀行」「東案内記」「箱館日記」も復刻出版した

平成19年　神山茂賞　　近　堂　俊　行

「恵山町史」の編纂に携わり、完成させるとともに、児童向け歴史読本「ふるさと民話集」の発行や恵山町広報誌に「恵山むがしむがし」を長期に連載するなど郷土史の普及、啓発に尽力

平成20年　該当者なし

平成21年　神山茂賞　　近　江　幸　雄

郷土史の歴史の中に埋もれかねない幾多の事柄や人物に光を当て、これらを後世に伝えようと努め、市民に郷土史に対する興味や関心を呼び、郷土史を身近なものにした

平成22年　神山茂賞　　七飯町郷土史研究会

平成元年に郷土を育んだ歴史を学ぶため「七重学校」を開校、古文書講座や研究発表会を継続して開催し、これまで「研究会記念誌」や「郷土かるた」等郷土にかかる多くの出版物を発行

平成23年　該当者なし

平成24年　神山茂奨励賞　　桑　島　洋　一

長年にわたり写真史研究に取り組み、函館写真研究の第一人者として多くの研究発表があり、特に「地域史研究はこだて」に発表した「函館写真史・考」は高い評価を受けている

平成25年　神山茂奨励賞　　木　村　裕　俊

定年退職後郷土史の研究を本格的に取り組み、北海道でもっとも古いといわれる文献資料「新羅之記録」現代語訳は高い評価を得て、また、郷土史研究団体における研究発表を継続している

平成26年　神山茂奨励賞　　中　尾　仁　彦

平成２０年「函館歴史散歩の会」を設立、爾来、主に函館西部地区を中心に名所、旧跡、文化、風土について調査を重ね、集積した郷土史研究の成果を現地で説明し、郷土への愛着心を喚起

平成27年　神山茂賞　　松　村　　隆

江差地方の歴史・文化・風土をテーマに写真展を続け、また、文芸誌「えさし草」の定期発刊を続けるなど郷土の歴史・文化を後世に伝える活動は、郷土史研究に大きな足跡を残している

平成28年　神山茂賞　　森　本　貞　子

文学作品として高い評価を得ている「女の海溝」や「冬の家」は、郷土史研究の立場からもこの作品に払われた資料収集･調査の膨大な努力とその成果が、郷土の歴史に対する関心を高めた

平成29年　該当者なし

平成30年　神山茂奨励賞

はこだて外国人居留地研究会

箱館の開港の歴史における外国人居留地という新たな観点から意欲的に研究活動を進め、「はこだて外国人居留地マップ」を発行するなど郷土史研究に大きな事績を残している

令和元年　該当者なし

令和２年　神山茂賞　　館　　和　夫

江差町に伝わる民謡・江差追分の歴史・文化を解き明かすとともに、“男爵薯”を生み出した男爵川田龍吉の事績を人物伝としてまとめるなど優れた活動が評価された

令和３年　該当者なし

令和４年　神山茂賞　　木　村　裕　俊

長年にわたり地道な調査・研究を続けられ、今回、榎本武揚、神山茂が著した箱館戦争における戦没者名簿を比較調査し「箱館戦争 新・戦没者名簿」を出版するなど、郷土史研究の発展に寄与された

令和４年　神山茂奨励賞　　新　城　光　正

42 年間に亘る造船技術者として数多くの船舶設計を手掛ける傍ら船舶資料や街の移り変わる様子を「ぞうせん現場から見た『港はこだて史』」として纏め上げた成果は、後進の研究に資するものである

令和５年　神山茂賞　　中　尾　仁　彦

永きに亘り郷土の歴史や文化を市民と共に辿り、伝承する活動を継続されてきた。また、SNS を活用し新たな情報発信の手法を用いてふるさと函館の足跡に触れることを可能にしたことが高く評価された

令和６年　神山茂賞　　久　保　　泰

令和３年に刊行した「松前藩家臣名簿」は、誰もが松前藩家臣の詳細な履歴に触れることが可能となり、郷土の歴史探求と継承にとって極めて貴重なことで、郷土文化の一層の振興に寄与する

「神山茂賞」受賞者に贈られる
トロフィー「響」
（金属造形作家
故折原久左エ門氏制作）